

化學的醫學的之實地經驗

155

561

容儀衛生治病新法

柴田三治郎編著

明治二十九年九月刊行

鴻益堂發行

058714-000-5

特25-84

治病新法（容儀衛生）

柴田三治郎／著

M24

CBC-0261



緒言

本誌の内外科諸大家が浩博の學理と多年の實驗により得たる理化學的醫學的の一大新奇發明法にして荷も奏効確實にして鴻益便利なる者ハ之を蒐集して洩すなく文章は平易にして童蒙女子にても解し易く叮嚀に之を説き聊濟生治病國利民福の増進を圖るを以て目的とする所以なり世人乞ふ寶の山に入りなから手を空するの嘆なからんことを

明治二十四年九月

編者識



○緒

濟生治病の部

死人蘇生法

溺死人蘇生法

虎列刺病死人蘇生法

即療の創藥

煤毒傳染豫防の奇法

疥癬簡易療法

打撲に就て

胃病即治法

痲質速速治法

「アセモノ」速治法

不眠を治す最簡法

縊死人蘇生法

頓死人蘇生法

難産死人蘇生法

火傷即治法

夏日炎暑の渴を止る法

耳痛の速治法

雪隠防臭を防ぐ法

健胃酒製法

酒の嫌になる妙藥

ざれ痔の療法

睡眠を防ぐ最簡法

喉癆を治する法
 物の眼に入りたるを出す簡法
 蜂に刺されたるを直に治する新發明法
 痢病の妙藥
 蝮蛇に咬れたるを治す法
 夜盲を一夜に治す法
 刺抜の法 二法
 少き瘡を治す法
 脚氣病必治の妙藥
 咽喉に魚骨の掛りたるを除く法
 蚊に噛れたる即効藥
 逆上を治法

漆にまけたる治法
 簡便目藥
 中毒患者を治療する妙法
 乳の出る奇法
 蜂の刺したる時の心得
 ひし齒の痛を止る法
 イボ痔を治す法
 頭痛即治法 三法
 中風名灸點法
 精銷水製法 目藥
 溺者を救ふ心得
 乳の出る奇法

カル、ス 鹽製造法

容儀の部

神速に陰精を強むる法

肉色を白く艶美ならしむ法 四法
 七日間に男女の色を白くする法
 皺の消る奇法
 身体を肥大強壯にする法
 服臭を治す最簡易良法 二法
 鼻の赤さを治す法
 痘瘰を失くする法
 齒を白する法
 髪の小せを直す法
 酸肌を治す法

雀斑を去る最良法
 手の色を白くする法
 ナマツ速治法
 イボを落す最簡便法
 毛髮必生法
 頬焼を治する法
 頭髮を濃する法
 あせを防ぐ法 二法
 陰風を治する法

婦人の髪垢を洗すして簡易に落す法
洗滌黒を抜く法

濟生治病之部

死人蘇生法

此法は歐米大家且日本往古の名醫中にも實驗特功ありたりと云ふものにして其術容易く何人にも活用し得る便法なり

縊死人蘇生法

一 雞屎五匁を清酒三勺に混し能く交和せしめ而して縊死者の口並に鼻の穴へ注入すべし蓋て十時間以内なれば必らず蘇生すへし然れ共十時以上を經過せば其効を奏せざるべし又た雞冠の生血凡そ五匁ばかりを取りそれを縊死人の口中に注入し又其絞りたる局部に塗抹せよ一度ハ必ず蘇生すべし然れども是亦十時間以内たるへし

溺死人蘇生法

溺死人を蘇生せしめんとするには其死体を大ひたる床上に臥せしめ兩足を高くなし生鹽を臍の上に塗るべし斯の如くせば自ら水を吐き甦ると甚た奇なり又溺死人の臍へ灸をなし管にて耳を吹くも多くの蘇生す彼の死体を倒まになし水を出さしむるは能く人のなす所なれども之れ眞注にわらず万一蘇生するも其人必ず多病の者となり決して全快することなし

頓死人蘇生法

人の殊に恐るべき頓死にして一朝之に罹れり如何なる名醫奇薬も之を救ふに由なければ人々常に此術を記憶しこの恐るべき禍害を瞬速に救ふさるへからず而して其法

とは他なし唯だ半夏と生姜末の二品にして卒倒の際直ちに右二品を鼻の穴へ注入するが亦臍の正中へ百の灸するも時に効あり

虎列刺病死人蘇生法

人若し虎列刺病にて死せば直に左の法を行ふべし十中七八は甦るものなり又同病に罹りたらは直く此法を行ふべし治療するに効あり法とい乃ち生鹽を火にて熬り大なる白の綿布にて造れる袋に入れ身体各部へあて鹽の熱度の消せざる様度々取替へ之を當て行ひ肛内へは一層熱き鹽を當つへし此の如くして一日三回位つゝ海水湯に浴せしむると三日に至れば必ず快氣に趣くべし又死人には一日間此法を強く度數を加へ行ふべし

難産死人蘇生法

難産にて其子胎内に死し爲めに其母死に至りたる時に
の直に冬葵子を細末になし酒に和して服用せしむべし若
し妊婦口噤みたるも強く明けて之を飲ますべし立所に蘇
生すること妙なり

即療の創藥

人若し過て切疵したる時直に石油を濯ぎ出血を洗ひて
藁にて疵處を括り置くべし之即効の便法なり

火傷即治法

種油一合鹽一合(凡て同量なれ)よし右二種調合して傷所
へ塗抹すべし如何なる火傷にてもウミ、ハソ、の患なく全治
すること予の盟て保証する所なり少しの火傷なれば醬油

を附てよし

煤毒傳染豫防の奇法

一格魯兒石灰 百八十氏 一食鹽 一オンス
右二藥を混和し一椀の水に溶解し房事の前に陽莖を洗ひ
房事後直に放尿して又能く陽莖を洗へ如何なる煤毒患
者の婦人と交合するも決して傳染受病の患なし

夏日炎暑の渴を止むる法

清水一杯に醋三滴を交へて飲用すへし多量の水を飲用す
るよりの無害にして身神の快活を覺ゆる良法なり

疥癬簡易療法

ドクトル、ポールゲチア氏の數年以來疥癬に石炭油を用ひ
て驚く可き功驗を治めたるを報告せり氏の法に依れり

三日を出すして必ず治癒す其法とは乃ち初日に於てハ臨臥に患者の全身但し頭部を除く石炭油を塗布し殊に多く侵されたる部而して敝衣を着し翌朝に至り石鹼と微温湯を以て油質を洗去するにあり此法を反覆すると三夜にして全く癒るを常とせ此法は管に單純簡易なるのみならず非常に廉價なるを以て特に貧民に適す乃ち要する所の物は唯だ一罐の石炭油と一片の石鹼に過す且此療法の無害なるトハ氏か曾て八歳の小兒に試て一の障害を見ざる所然し極幼少の者に施すには須く謹戒を加へざる可ず

耳痛の速治法

耳の中に燄衝を起して痛むことあり其痛激烈なるものは耳後に蛭二三十條をつげて血を吸はしむへし又ナローフ

油を耳の中にたらし綿にて其孔を塞ぎ風にあたらざるやう注意すべし而して痛の治したる后は「シヤボン」を薄くとかしたる微温湯にて耳の中を洗ひ去るべし若し冷したる薬にて洗へん必ず眩暈す慎む可し

打撲に就て

打撲にて創傷なきハ只冷水を灌ぎ或は冷水水中に入れ克々冷すのみにて足れり洗冷は三四日にして良し或は打撲後日時久しきを經るものと雖ども同し事にて決して藥品を用ふ可らず温物を以て暖むるは特に大害ありとす

雪隠防臭法

夏月便所の臭氣を止るには桐の葉一二枚乃至數枚を取り來り之を手にてモミ切るか又は藥力にて適宜に切りて大

小便器中に投入すへし其奏功の確實なると奇妙なり

胃病即治新法

先づ第一に食物に念を入れ消化し易きものを自己の欲する所より少しヒカへ目にして可成滋養分の多きものを少量つゝ用ひ左の薬劑を毎食一時前に十五氏を服す可し

炭酸 マグネシヤ 健質亞那末 各等分

但し右乳鉢に入れ能く磨る可し

健胃酒製法

健質亞那根 五匁 サフラン 一匁 桂皮 二匁

菖蒲根 一匁五分 二十度アルコール 一合

右を瓶に入れ冷所に放置すると五日間毎日三回之を振盪し濾過すへし而して其用法ハ一椀の糖水に十五滴を加へ

服すへし其効用ハ之を常用すれば消化を進め血液の循環を善し畢生病魔に襲るゝと亦く且つ身体を強壯肥満ならしむるに効あり

儂麻質速治法

一底列並油

右一味毎日五回乃至六回患部に塗擦すれば如何なる儂麻質も治せすと云ふとなし

酒の嫌になる妙薬

露國の醫師「プロトカルプ氏」の説に「ストリキニーチ」薬名一式を水二百滴を解き五滴つゝ毎日皮下注射を施さバ奇妙に酒嫌になるなり

「アセモノ」速治法

硫酸銅 五、 枯礬 一、二 水一合半に溶解し毎日二三回宛塗るへし實に奇妙なり是も多年の實驗なり

され痔の瘡法

赤牛の糞を適宜の法にて黒焼となし細末として服用すし然る時にい如何なる肛内裂痔にても愈めると妙なり
不眠を治す最簡法

深夜に至り眠らんとせれ共眠むると能ひざるは甚だ困難なり且つ精神に勞を覺ゆるものなり斯る時には左の法を施せは直に全治す

一 燈心 五十 夕 一 清水 五合

右の品を能く煎じ其汁を一週間乃至二週間服用せば全治すると妙なり

睡眠を防ぐ最簡法

不眠も困難なれども妄りに眠氣の出つるも亦困難なるものなり此を防かんには「メウカ」の根を手の幅だけに斬り此を尻の下に布き座せは終夜と雖も眠氣の出さると奇なり
喉癆を治する法

酒に食鹽を少し加へ含みおれば漸治す

漆にマケたる治法

山椒の青葉をすり其汁をぬり翌日入浴すれば自然に剝落るものなり

物の眼に入りたるを出す最簡法

稻或は麥の芒の目の内へ入りたる時は大麥を煮て其汁にて徐々と洗ふ可し又砂塵の目に入りたるには面を温湯に

浸し眼を開き面を屢々振ふへし亦書物の間に生ずる白魚
をツブシに和て目中に注ぎ入るへし最もよし又若
荷の根のシソを搗き其汁を入るも良し

簡便目薬

本法の當時大阪に有名なる或病院の直傳なれば眼病諸君
幸に試みて御覽其法の本藥を製せんとする丈の清水を瓶
の内に入れ其内へ燒明礬(五厘位)を少し許り入れ(其度の
清水の白色にならざるを度とす)暫時間すれハ該燒明礬は
充分水に溶解して其影をも留めず此にて藥は出來たるな
りカスミ目、タノ目の如きは其場で治るべし又此藥は目
に用て大効あるのみならず之を口中及び咽喉のアノに含
嗽すれば大に効あると余の保証する處なり

蜂に刺れたるを直に治す新發明法

蜂に刺されたる時にハ里芋の莖を以て摩す可し痛直に治
すること甚だ妙なり余實驗保証す

中毒患者を治療する妙法

中毒患者を治療するは急を用すること故早く吐かすを宜
しとす其吐すには一家の内に必らず有る種油若しくは胡
麻の油を煎茶茶碗に一杯口中より注入すれば必らず吐す
而して至快の後胃を害するとなき實に妙法なり
鹽湯などは後に胃を害するのみならず湯を沸すに時間を
費やす依て此法は用也べからず

痢病の妙藥

- 一 赤飴 五十目
- 一 鶏卵 二個
- 一 酒 一合五勺

右を煎じて服用すべし

乳の出る奇法

穿山甲(藥舖にあり)を白湯にて用ゐれば妙なり

蝮蛇に咬れたるを治する法

即時に露艸俗に(螢花)の花葉をモミ其汁を傷口につくれれば痛を止め忽に癒ゑると妙なり

蜂の刺したる時の心得

蜂の刺したる時は洗滌曹達一斤に水三四滴を漲ぎ之にて刺したる部分摩擦すれば痛愈へ腫引くべし

夜盲を一夜に治す法

肝油(賣藥屋にあり)四匁乃至五匁を水に深べ一度頓服すれば翌夜の夕方より明かに見ゆること確實なり

むし齒の痛を止る法

「コロムホルム」と「カヤンテ」油と各半ばに合し之を綿又紙(少き玉を造りに煎し痛む齒の穴に入るれば直に痛止るなり

刺抜の法 二法

身体手足等に刺を通し之を抜くに苦しむことあり右之法を用る時の刺も忽ちにして抜け失せ痛も止ること妙なり
一法 蝨を黒焼となし胡麻油に混し而して後痛所に附着せしめり必らず抜けるものなり
二法 蘇鉄の葉を黒焼とし前の如く胡麻油に混じ然る後痛所に附着せし如何なる深き刺なりと雖ども必ず抜けること保証する所なり

イボ痔を治する法

蛇の抜け殻を(尤も雨に逢さる者)適宜の法にて黒焼となし
胡麻油にて溶解し旅尿の時附るべし必らず二三回にして
全治す

少なき瘡を治す法

皮膚に少なき瘡を發し痛痒を治するにハ「コブ」を煎じて其
汁を附る時は必らず治す

頭痛即治法 三法

仰むき乃はち背を下に胸を上にて天に面する寝ね大根の絞
り汁を鼻孔に注ぐべし全治すると妙
二法 頭痛する時ハ裙帶布を煎じ其汁にて頭髮を洗へば
直に治すること妙なり

三法 臭素加里二五 水一弓入れ頓腹すべし實驗保証の

奇法なり

脚氣病必治の妙藥

甚手子六匁 車前子三匁五分 附子七分 久葵子三匁五分
木通八匁 (以上皆藥種屋に在り)右の五藥を水二升の中に
投じ之を一升六合に煎じ上げ其汁を以て小豆三合をたき
一日二度に食ひ盡すべし然る時は三日にして全治するこ
と保証す

中風名灸灸法

中風と思はれ直ちに手の大指を除くの外四指共に爪際と
肉との真中に幾日も灸すれば治すること妙なり御試みあ
れ三日の内なれば其効著し

咽喉に魚骨の掛りたるを除く法

種々ある中に最も即効あるハ鶏卵を割りて其儘茶碗の類に入れ子供なれば仰向に伏せしめて口内に流し込み大人なれば器を取て一口に飲入るゝなり如斯すれば如何なる大骨にても直に除去らすと云ふことなし

精錫水製法 目薬

雨水五十匁に硫酸亞鉛一分を溶して貯へ眼病の際日に三四度筆にて付くべし硫酸亞鉛は五匣出せば澤山あり此法の賣藥屋の精錫水と少しも違ふことなし

蝮に噛れたる即効藥

其噛るゝや否や直に煙管の脂を其患部まべつたりと附置ば蝮毒を消して無害なり

溺者を救ふ心得

水に溺し者を救ふにハ必らず後方より救ふべし若し前方より救ふ時は溺者力を極めて我に取付くに依り二人共溺るゝの恐あり

逆上の治法

「シウサンカリー」を求め即時一分程宛砂糖にても交せ服せば治す

乳の出の奇法

穿山甲(藥舖にあり)を白湯にて用おれば妙なり

カル、ス鹽製造法

カル、ス鹽は氏服して緩下痢を起し又湯中に溶解して諸病に大効あるカル、ス温泉となる浴湯に用るには一浴中五十匁を投じ内服するには及一匁内外を温湯に溶解して

毎朝食前に服するものなるが其製法は硫酸曹達五匁重炭酸曹達十匁純食鹽一匁五分の三味を混合して用るなり

神速に陰精を強むる法

陰精の強弱は身体の健全不健全と相伴ひ且生殖の功を成すに關するものなれば力めて之を強くせざるべからず若し陰精の衰弱したるを知らば毎日飯を炊きて沸騰したるとき其炊湯を廢茶碗に搦ひ取り鶏卵一個を破りて此中に投じ攪和して飲むべし斯の如くすること二週間乃至三週間にして精液の必ず強盛に服するは余の實驗して保証する所なり

容儀之部

肉色を白く艶美ならしむ法

男女を問はず貴賤を論せず肉色の良否の審に外貌の美醜如何のみならず大に其風采にも係るものにて世の諺にも色の白きハ七難を匿すと云へり然るに或ハ性來或ハ疾病によりその色醜悪なる爲心陰かに不快を感じ憂苦悲嘆の中に幾多の歲月を送れるもの少なからざるは豈慨嘆の至ならずや故に人その肉色艶しくし天然の美を増さんと欲せば左の法を行ふ時如何に色の黒も醜さも忽ちかわる美婦男となる事實地經驗上最も確實なる良法なれり世の貴嬢紳士よ幸に之を實行して其有効確實なるを知給へ乃ち其方法は 一水仙の玉(生のもの) 十個 右を細かにし大なる糠袋のよをな袋に入れ別に鍋へ左の品々を入れ煖火にて一時間はと煎つめ糊の様になすへし

一 鶏卵の殻を細末にせしもの 十個分 一 白砂糖 百目
 一 グリッスリン 酒香猪口へ二杯余 但し純粹のもの
 一 葛粉 五勺 但し葛粉は吉野葛と唱ふるものにて近
 來馬鈴薯にて製したる葛にては功能なし
 一米の白水 二合半

右の六品を糊のやうに煎つめたれば最初製したる薬を入れたる木綿袋の中へ交せて壺か瓶の中へ強よく搾り糊のやうなる汁を取るべし此汁は則ち白色薬にて此汁を七分糖三分の割合に交せ合せ綿袋に入れ毎日五六度宛湯にて洗へば如何なる色黒さも見違るまでに白くなるものなり又二法 サアサパリラ(薬種屋にあり)の根四オンスを六十四オンスの水に入れて煎立ると凡四時間ばかりにして取

出したるを町嚙に突き碎き再び煎立て、又水を入れ三十オンス程に煎結まりたる時絹布にて能く濾し終り二オンス宛一日三回欠かさず服用する時の血液を清潔にするを以て皮膚の自然に薄紅色となり而して度々湯に入る時は必ず其肉色を艶しくする事寔に妙なり

七日間に男女の色を白する法

一 白小豆 五合 一 滑石 一匁 一 白檀 一匁
 右の三種を紛末となし絹篩を以て篩ひ顔を洗ふ時常に之を用ふへし別て風呂へ入る時は肌へ塗りて能く洗ふへし而して「カラスウリ」の根一兩を漿水一合にて溶解したる物を以て顔に塗り暫くして漿水三合を以て洗ひ落すと毎夜七日間する時は見違る程色白くなるなり

但し漿水とは水の中へ赤土を解き一晝夜して其上水を汲む之を漿水と云ふ

第三法 冬瓜の仁 五兩 桃花 四兩 白湯花 二兩

を取り除乾にして各々細末となし食後に服用すること数日に日々に三服三十日にして面白く五十日にして手足共に白くなるなり

第四法 白附子 蜜陀僧 花芩 胡粉 白芷 桃仁

右六味を細末にして乳汁にて解き夜臥すとき面に塗り早朝湯にて洗ふへし十日にして顔美玉の如し

雀斑を去る最良法

近時此法を説くもの種々あれども大抵危険用也へからず唯之をなして害なく且奏功も第一なるハ乃ちハソコ

ロニーオンス 礪砂 コトラグマ 軟水 バイトンの三種を混合して一日三度づ、顔へつくる法にして此法を行はし如何なる酷き雀斑にても取れざる事なし又た成効の少し返きを厭はさればソモン油にて度々洗ふも無害にして且尤も簡便なる良法なり但し之を洗ふには冷水を用ひて湯及び石礪は決して用ゆ可らず

皺の寄ぬ奇法

此法は犢牛の生肉を求め之を面に塗り爾後毎週二回づ、此法を行ふ時は不思議にも面色艶くしく若やくものなり此法はた、皺を防ぐのみならず朝夕之を行へば色を白くし肌理を滑らかならしむ良法なれども塗り附たる後はなるべく真き石礪にて洗ひ清むべし且つ肉の最も新鮮な

らざる可からず

手の色を白くする法

手は最も人の前に使用するものなれば貴き賤しきに別なく娘子達にあつて之を艶しくすること太た緊要なり而して其法の他なし微温湯にて最も上等なる石鹼を用ひ可嗚に手を洗ひたる後能く乾きたる手拭を以て強く皮膚を拭ひ血の循環をよく爲すを以て第一とす人或は此法の簡略に過ぐるを以て奏効を疑ふならんかなれど手の皮を滑かにし透き徹るが如く美麗あらしめんと欲せば此法を幾度もなく用ゆるの外他の方法おし且つ若し之をなすに左の藥品乃ち巴且否ニオンス白臘三ドラクマ鯨頭油三ドラクマの三品を薔薇水にて煉り交せ夜臥床に入る前に於て

丁寧ていねいに手に塗り翌朝あさ之を洗落あらいそすまで必ず手袋てぶくろを掛け置くやうせば成効せいこう更に速すみやかなり

身体を肥大強壯にする法

卯武蘭たむらぎ煙酒えんしゆを一日に一劑さい宛服すべし然る時は二週間ふたしゅうかんにして体量たいりやう五百目以上を増す又以て其効能きこうのうの著しきを知るべし

ナマス速治法

なまづを治せんと思はゞ生姜しょうがをつき度々塗付くを以て最も簡易かんいなりとす又蛇へびのヌケがらを黒燒くろやきとし酢すにてとき度々塗り付るも大に良し亦白赤なまづは鰻うなぎの皮を燒きて其指ゆびを長く取りぬり付くへく紫むらさきなまづは蛇へびのヌケがらを水に浸し洗あらふも可なり

腋臭わきがを治する最簡易良法 二法

毎朝サルチル酸(藥店にあり)を局部に磨擦すれば一日臭き
 ことなし再三此法を用れば全治すること保証す
 二法 單寧溶液へ燒明礬を入れ之ドロドロにして朝夕忘
 たりなく腋の下へ塗るべし期の如くすること數日ならず
 して如何なるツキガど跡ども全く其跡を絶ち再ひ發する
 ことなかるべし

イボを落す最簡便法

木皮の腐敗水尙最も簡なるハ花立の水を塗りつくる法な
 り二三度つくれば奇妙に落ち去る

鼻の赤さを治す法

鹽を常に鼻に、ヒリつけ置くべし治するなり

毛髮必生法

結晶醋酸 コロ、ホルム の二品を等分にして朝夕一回
 づ、細く局所に塗るべし

瘡斑を失くする法

理化學上の進歩は遂に實際に此の痘痕を失くするの奇法
 を發見せり其法とは乃ち白色法にして單に色を白くし肌
 理を細かにするに効あるのみならず兼て痘痕を治すに大
 に功あるものなれば左に其法を説くべし

八十五度のアルコール六升、ソモン精五オンス、佛手柑精
 十二トラクマ半、ヘルガモット精四オンス、ラヘンダ精一
 オンス、セソイン丁幾一オンス
 以上の六藥品を其記載の順序を以て混合したるもの之を
 ハンドコロン云ふ乃ち白色法中新最良の奇藥にして大概

の、痘痕ならんに之を付ること二週日にして其痕失なる
と云ふ豈奇ならずや

頰焼けを治する法

此は毎朝カルス泉監二ナグラムを茶碗一杯の温湯に溶か
して服用せれば如何にひどく焼けたる頰も必ず直るもの
なり最も之を用ゑると少くも一ヶ月間は續けざるへから
ず且始の内は少しく下痢するともあるも決して心配すへき
にあらず

但しカル、ス泉鹽製造法の衛生治病欄内に精く記せり
齒を白くする法

竹葉を黒焼にして粉となし齒牙を磨けば純白となり又健
康に益あり

頭髪を濃くする法

此法の亂髪(男女の抜髪なり)を清水にて洗淨し日光に晒し
て水氣なからしめ後胡麻油にて煎じパツスル投じ極て微
細ならしめ香油にて練り毎日頭髪に塗布すれば數日を出
すして頭髪漆黒にして光澤を露すと實驗保証する所なり

髪のリッセを直す法

柘榴の皮を煎じたる汁を貯置き髪を梳る毎に少しづゝ用
ふれりリッセを直し且つ黒髪となること妙なり

あせを防ぐ法

牡蠣粉 粟粉 麻黄根 但末 各等分
右の三味を等分に合せて絹又ハ布の袋に入れ汗の出る處
をウチ又ハ摩れば汗を止むること甚だ妙なり盗汗には右

の法の如く汗の出る處を搦ち又ハ摩りて寝ぬるべし盜汗を止ることも妙なり此法を常に行ふ時は如何なる炎熱酷暑の候と雖も汗の出る患なし

皸肌を治する法

湯溶する時湯の中へ酒一升を入れ日々續けて洗ふこと三週間にして皸肌悉く癒へ肌目よくなるなり

又法「リスリン」八匁中へ白芷末一匁を加へ能く混合して之を度々塗るへし治効妙なり

陰虱を治する法

第一法 胡柳の粉を水に溶て二三度塗れば悉く尽ること疑ひなし

第二法 陰虱を容易に治するには煙管のやにを沸湯にて

溶解し洗ふべし忽ち死す

婦人の髪垢を洗すして簡易に落す法

一 藪本 一 白芷 各等分

右細かく粉にして夜髪にぬりて翌朝櫛にて髪をけづれば髪垢の垢落るなり

疣瘰癧を抜く法

藜を黒焼にして石灰と等分に混合し之を蓋ある器に酒を少し入れ右の混合物を之に投じ其上に糯米を投じ之を氣の出するやう蓋をなし置き糯米の解くるを俟て之を他に付かざるやうぬり置くへし

明治二十四年九月五日印刷
同年同月十六日出版

(正價金拾五錢)

香川縣平民

編輯兼
發行者

柴田三治郎

大阪府大阪市東區農八町二
丁目四十四番屋敷寄留



大阪府士族

印刷人

延原直常

大阪府大阪市南區內安堂寺
町二丁目二十一番屋敷